



住宅1棟の空調 エアコン1台で

室蘭の「ウチイケ」など実験

室蘭市八丁平の住宅メーカー「住まいのウチイケ」などがつくる産学の共同体が15日から、一般的なエアコン1台で住宅1棟すべての空調を管理できるシステムの実験を始める。部屋ごとに暖冷房機器を置く必要がないためコストを抑えられるといった利点があり、仕様完成後、道内で普及させたいと考えた。(片岡麻衣子)

共同体は住まいのウチイケはすでに導入事例がある。

ケと、空調設備などを手がける「エコテック」(札幌)、

北海道科学大の3者。システムは、住宅の省エネシス

テムの研究などを行う「システック環境研究所」(東京)が開発した。一般的な

エアコン1台を箱に入れて屋内に設置し、この中でつ

くった暖気や冷気を管で送って、部屋や廊下などの吹

き出し口から出す。本州で

道内の高断熱、高气密住

宅では、1カ所の熱源で家

全体を暖めるセントラル暖

房の導入が進んでおり、中

でもボイラーで炊いた温水

を送る方式が主流となっ

暖冷気を管で送風

ただ、部屋ごとにパネルヒーターなど暖房機器の設置が必要で、経費節約のため、トイレや洗面所には設置できないこともある。

実証実験するシステムは経費低減のほか、管を床下に通すことから、床暖房の役割も期待できるという。

また、暖房だけではなく、冷房も含めた空調管理ができるのが特徴だ。

住まいのウチイケの内池秀光社長は「道内で性能を発揮できれば、本州でも十分に通用する。胆振でシステムを完成させ、全国に広げたい」と話している。